

# 北海道守る会会報

No.37

北海道重症心身障害児(者)を守る会  
発行 行：事務局 北海道旭川市春光台4条10丁目 北海道療育園内 (0166-51-6524)  
発行責任者：会 長 太田 由美子

発行日  
令和2年3月31日

## 春の足音を希望に

北海道重症心身障害児(者)を守る会

おおた ゆみこ  
会長 太田 由美子



3月に入り、寒さが和らぎ春の足音が聞こえています。  
会員の皆さまには、日頃の会へのご協力に心より感謝申し上げます。  
2020年、例年より積雪も少ない穏やかなお正月を迎え、中国の新型コロナウィルス感染のニュースも対岸の火と感じていたかと思えます。  
ところが、2月の雪まつりが終わり、6月末札幌市開催の守る全国大会に向け、主に事務局を中心にボランティアの配置や懇親会について具体的始動の矢先でした。国内、道内でも感染が広がり、終息が見えない中で今年の全国大会中止となりました。

昨今の自然災害に勝る想定外、先の見通しが立たない不安感や様々な自粛へのストレスがウィルス感染と共に広がっている現実があります。

特別支援学校も突然の休校になり、子どもたちの体が硬くなる、生活のリズムが崩れる、全介助の負担は一気に母たちの24時間介護となり厳しい日々を送っている方も多いかと思えます。放課後等デイサービスも定期利用以外の受入れは難しいという声もあります。子どもたちの我慢、ストレスが体に変調をきたしてはいないでしょうか。

また、施設入所のご家族は本人の様子を案じながら、面会や外泊が再開される日を待ち望んでいることでしょう。

そして、感染拡大への社会的現象としてマスク不足、アルコール消毒液の欠品が、医療的ケア児者の在宅ケアに影響しています。日常にアルコール消毒液等の医療品を使用していた在宅介護の人たちが感染による重篤化が予想されるにも関わらず品不足で困っているのです。訪問介護や訪問リハビリなどの事業所の深刻なマスク不足も含めて対応が急がれます。

共生社会を目指す障がい福祉計画の見直しが各自自治体で始まっています。しかし、他の障害に比較しても少数派(人口当たり約0.03%)である重症心身障害児者の社会の理解は乏しく、様々な場面で声を挙げていくことが必要です。

子どもたちが社会の一員としてよりよく暮らしていくためのニーズの掘り起しが守る会運動の原点です。本人の思い、家族の思いをざっくばらんに関係者と一緒に話す機会を工夫していけたらと思います。

新型コロナウイルス感染が一日も早く終息することを祈り、「そんなこともあったよね」と笑って話せる日がきつとくることを信じて、新年度を前に今できることをしていきましょう！私の場合は手始めに、探し物の時間短縮のための書類整理でしょうか。

守る会 三原則	
決して争ってはいけない	
一 争いの中に弱い者の生きる場はない	
親個人がいかなる主義主張があっても重症児運動に参加する者は党派を超えろ	
一 最も弱いものを一人ももれなく守る	

記事内容	
・会長あいさつ 会長 太田由美子	P1
・施設で行われている 日中活動について	P2 P3 P4 P5
・第4回理事会報告 ・第57回重症心身障害児(者)を守る会全国大会	P6
・新型コロナウイルス感染対策に関する重症心身障害児(者)の生活を守る緊急要望書	P7
・コロナウイルスについて	P8 P9
・守る会運動のご案内	P10

会員情報	
正会員	894名
賛助会員	129名

## 施設で行われている日中活動について

平成29年3月に当会のかねてからの念願であった「児者一貫体制の維持・継続」が認められ、施設入所の特例処置の恒久化が経過し、3年が経過しました。

そこでこの決定の前提条件となっている「入所者の年齢や状態に応じた適切な日中活動を提供する」について、日中活動の現状と課題や保護者の想いを各施設より寄せていただきました。

### ◆しらかば愛育園（八雲病院）父母の会

青柳 さち

施設で行われている日中活動については、遠隔地の為、年に12～13回しか行くことが出来ませんので、詳しくは分かりませんが、1年を通してお楽しみ会（年2回）6月と10月、誕生会2ヶ月に1回、運動会、クリスマス会6月～9月の間に外出して買い物、週2回の入浴、個別の日々の過ごし方は、動ける子・動けない子とその子に合った活動をしています。ディルームで音楽を聴いたり、ビデオを見たり、レクリエーションなどを週3回程度行っています。日中活動は週単位の個別プログラムを用意してもらっています。1年に1度計画表が保護者の所に届き、こちらから希望



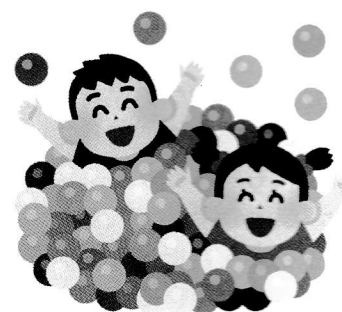
書を出しております。私の妹は音楽が大好きです。音楽を聴かせて欲しいと要望、また出来るだけ声掛けしてもらおうのが一番の薬です。体調も安定していますが、ナースステーションから遠い部屋なので淋しいのではないかと心配です。オムツ交換・食事・見回りの度に一言でも良いから声掛けをして欲しいと願っています。昨年のお楽しみ会ではジブリの音楽会でした。その背景がすばらしく、車椅子に乗せてゆっくり見て廻りました。職員の皆さんの力作に感動しました。子どもたちもたくさん写真を撮り、笑顔いっぱいでした。八雲病院は、令和2年8月末には函館・帯広・札幌と新しい病院に移ります。父母の間で不安がいっぱいです。新しい環境でうまく生活していけるよう祈るばかりです。父母も高齢化して保護者も兄弟姉妹に変わりつつあります。私も姉として見守っていくためには保護者が健康でなければなりません。面会回数を出来るだけ多く出来るよう頑張りたいと思います。

### ◆緑花父母の会銭函部会（大倉山学院）

西本 テル

大倉山学院は平均年齢54歳と高齢化が進み、障害程度も超重症児者から強度行動障害児者の方々が生活しています。日中活動は他の施設も同様と思いますが、生活の質を高められるよう「個別支援計画書」を立案し、具体的な支援が行われています。

日中活動は、平成28年度からハンモック・ボールプール・トランポリン等の揺れにより、感覚を刺激して運動機能の向上や情緒の安定を図るという「感覚統合療育」に取り組んでいます。年齢や障害の程度に関係なく楽しめることも利点で、多くの方が笑顔で参加しているようです。課題もあり



感覚統合の理論と実践法を習得したエキスパートが現在いないため根拠に基づいた療育が出来ていないこと、現場職員が慢性的に不足しており、実施頻度が月1回程度になっていることだそうです。また、自閉症スペクトラム障害の方に日中は構造化支援を目標としていますが、限られた生活空間の中で個室の確保は困難な状況であり、環境面の課題も山積みしている現状とのことです。

個別外出については、重症化が進み、経口摂取できる方の減少と、食事形態もトロミの付加等が必要であり、対応できる場所が限定的になってしまっている様子です。

行事について、以前は「集団参加」に異議を見出していましたが、現在は個人が本当に楽しめるものになっているのかの視点が重要になってきています。全員参加や全体調和を目指すのではなく、不揃いのま

まで良い…参加しない権利もある…それぞれの生き方に寄り添うことが大切と考えていると施設の看護部長は話されていました。

息子（42歳）は移動サービスの日を楽しみにしています。移動サービスについては対応できる事業所が少なく、利用する入所者の情報伝達に時間を要すること等の課題がありながらも、施設側は積極的に活用する方向で検討してくれました。施行後二年目に施設の相談員さんが1年かけて、一事業所を探してくださいました。3年目にやっと契約することができました。月2回、1回2時間をとっても楽しみにしています。今年度から大倉山学院のOBの方が支援員さんとして担当してくださる事になり、昨年度より多くの入所者が支援を受けられるようになりました。移動サービスがもっと充実し、「親亡き後の生活が豊かになっている」ことを見届けることが最後の役割と思っています。

### ◆緑花父母の会琴似部会（緑ヶ丘療育園）

橋本 照子

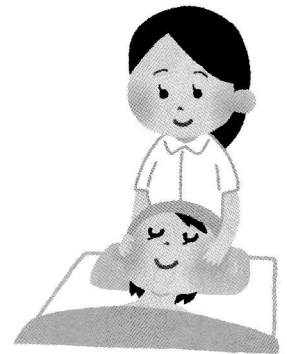
職員の方々も頑張っていますが、娘をはじめ子供たちも年齢が上がり今まで出来ていたことがどんどんできなくなって、楽しむ活動以外に手のかかることも増えていると思います。日々の生活には「生きるために必要な活動」と「人生を楽しむ活動」の両方が必要なことだと思います。

緑ヶ丘療育園では、入所している子供たちのために3年程前からエステシャン・ネイルケア・フットケア・外出支援など外部の事業所も取り入れた新しい日中活動が始まりました。エステシャンは顔や手をオイルマッサージして男女を問わずマッサージを行い喜んでいきます。ネイルケアは手の爪をきれいに整えるだけでなく、コーティングをすることで爪を護る効果があるようです。フットケアは足の爪をきれいにし、踵の角質を取り除きツルツルになります。わが子も、気持ちよくてうたた寝をするということもあると聞いています。

外出支援では施設周辺の散歩から、大型ショッピングモールへの買い物やカラオケ、ドライブなどいろいろな場所へ行くことをとても楽しみにしているようです。特に買い物は自分の好きなものを、自分で選んで買うことができていることをとても喜んでいるようです。買い物の後は、自分でスイーツを選んでおいしそうに食べているそうです。また、お気に入りの職員さんもいるようでそれも楽しみにしている様子です。

また、小さな音楽会や移動動物園など出掛けるだけでなく、施設に来てくれる活動にも取り組んでいるようです。

これからも、子供たちが元気に過ごせるように、ひとりひとりを考えた「人生を楽しむ活動」に取り組んでほしいと思います。

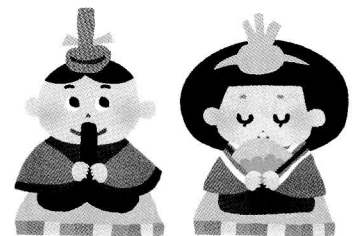


### ◆北海道済生会西小樽病院みどりの里 父母の会

大原 廣

北海道済生会西小樽病院みどりの里では、施設職員それぞれの分野で子供一人一人の能力と機能を生かし、興味を示して楽しい活動が出来る様、支援計画を立てて支援して頂いています。内容としては貼り絵や手形・足形でアートな作品を製作、スイッチを押してパソコンを操作した模様描き、野菜や花を育てる、他に色々出来上がった作品を展示してあり、家族も楽しむことが出来ます。その他グループで長い時間をかけて活動した成果を披露したり、季節ごとの行事、節分・ひな祭り・夏祭り・クリスマス会などに参加し、子どもたちが楽しみにしている施設外のバスレクとして年1回札幌小樽市内余市などグループ2～3名ごと本人の希望や行きたいだろう場所を想定し、見学や買い物、散策などの体験をしています。

年2回ほど施設より活動の様子を紹介した「みどりの里だより」が郵送されて来ますが、事情があって面会出来ない家族の者にとって子供の様子を知ることが出来、大変有難く思っています。



## ◆ 国立病院機構帯広病院 父母の会

岩井 悠紀子

日中活動については利用者の皆さんに楽しんで頂けるよう様々な活動を行っています。内容は誕生会、外出行事、季節行事（運動会・秋祭り・クリスマス会等）、動物介在活動などの行事活動の他、スヌーズレンやミュージックケア、ムーブメントなどのグループ活動、主に短期入所利用者といった在宅の利用者の皆さんにもご参加頂いている合同療育活動などがあります。



なお、日中活動のグループ活動については、利用者の皆さんの身体や障害程度及び活動目的別においてグループ分けし、年度毎にグループメンバーの検討を行いながら、継続的に日中活動を展開しています。

また、近年の状況としては、利用者の皆さんの高齢化やそれに伴う障害の重度化といった問題も見られてきていることから、年齢や生活状態、個々のニーズに応じて対応できるよう、児童指導員・保育士が個別的な関わりや支援をおこなっています。（インフルエンザ対策から新型コロナウイルス対策と面会制限が続き、重心病棟の療育指導室長より情報をいただきました）

## ◆ 医療福祉センター札幌あゆみの園 保護者会

児玉 玲子

すべての施設利用者に日中活動の提供が整うのはいつになるのでしょうか。重度障がい児者私たちの子どもたちは毎日の生活の中で刺激が必要なのではないでしょうか。

施設利用者さんの日中活動の内容は次に示したものと思われます。イ、園主催の大きな行事、ロ、園行事係主催の行事、ハ、病棟主催の行事、ニ、病棟小グループ分けの活動、ホ、個別対応です。ですが、すべてに皆が参加できるわけではありません。一人が参加できる活動は限られ、特に医療的ケアを必要とする子どもたちは活動への参加は少なく、悲しく感じているでしょう。行事に可能な限り参加するには親が率先して子どもと一緒に参加するに限ります。



施設の現状では施設入所者も高齢化・重症化していて、その対応に追われ、職員に対する働き方改革も新たに加わり、現場では制度改革によって右往左往している現状なのではないかと感じます。

移動サービスの支援についても同様に思われます。この支援を利用することにより活動の幅も広がり社会参加も多くなります。この支援を実現することにより、子どもたちの笑顔も多く見られることとなります。しかし、多くの子どもたちはなぜ利用することが出来ないのでしょうか。希望しても支援してくれる事業所も少なく、医療ケアの必要な人には看護師さんの同行も必要なのです。この支援も一部の人には絵に描いた餅にすぎません。

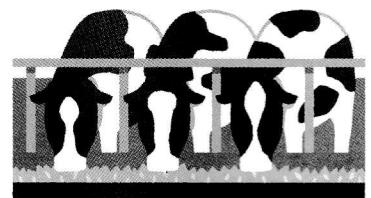
「年齢や状態に応じた適切な…」とはあまりにも幅が広く、この状態に対応させてもらうにはどれくらい待てば良いのでしょうか。

行きたい場所にいつでも行ける。子どもたちが生涯いつでも学べる時間があったら楽しいだろうと思います。そんな時期が来ることを願っています。改革だけが先行し、現場での整備は後になっているのではないのでしょうか。

## ◆ 美幌療育病院 父母の会

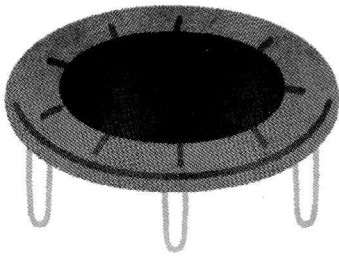
齊藤 昭子

私共の娘は旭川の北海道療育園で9年、美幌療育病院に移動して17年になります。旭川の時はいかに行くたびに大変な思いをしました。私共は酪農業で長時間家をあけるのは無理があります。朝早く作業を済ませ学校へ行く子どもたちは祖母に預け、夜の作業までに戻らなければならず、娘との時間はわずか1時間ほどでした。その間はどんなものを食べて、どんなことをし



て1日を過ごしているのか等は考えませんでした。とにかく元気であるか顔を見るだけだったように思います。今思えば僅か4歳で施設に預けられ、なんと心細く、淋しかったことか、会いに行っても別れが辛い車の中で涙が止まらなかった事が思い出されます。

適切な日中活動を提供するという事は、出来る限り健常者と同じような生活に近づけるということではないでしょうか。私の娘も年2回は外泊し自宅での生活になります。2週間ほどの間、一緒に起きて牛舎に行き、子牛にミルク・草をやる。娘は見ているだけですが、家に居るといふ安心感があるのか、夏はトラクターでの草刈りをみて、畑でご飯となることもあります。二週間はあつという間に過ぎ戻日が近づくと、不機嫌な表情になり返事もしません。何度も言い聞かせ送っていき、施設に着くとスタッフの皆さんの暖かな出迎えを受けるとも笑顔になります。私たちの突然の面会時は外を散歩していることもあれば、サンルームで音楽を聴いているときもあり、1日様々なことをして過ごしています。施設での活動の一つは年間計画の療育活動です。宿泊または日帰り旅行、町内外の公園散策、プラネタリウム、ドラックストアや本屋での買い物などです。重症者や高齢者で活動が低下している方にはバスの揺れと音楽を楽しむドライブも行っています。芋ほり遠足は同敷地の就労支援の畑を借り、種芋植えから収穫までの過程を楽しむ芋作りをしています。日課としてのサンルーム活動はトランポリン、アロマ、足湯、作品作り等個々の状態に合わせて行われています。日中活動の現状と課題と言ってもそれぞれで、障がいの程度に応じて対応しなければならないと思います。施設の方々は大変なことと思いますが、私達父母の会の皆も少なからず協力して、より良い施設の在り方を考えていければと思っています。



## ◆北海道療育園 父母の会

中村 貴幸

北海道療育園での活動は大きく分けて、園外活動・合同活動・課内活動の3つに分けられ、園外活動と合同療育、季節行事は年度初めに年間計画が各家庭に送られてきます。

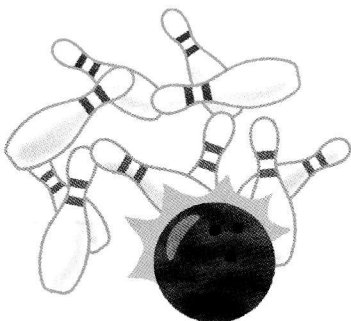
園外活動ではバスで市内や近郊に出かけて行き、散策・鑑賞・体験・レクリエーション等を通し地域や社会との交流を深めたり、娯楽・遊興施設（ボーリング等）を楽しんでいます。また、数年に1回家族も一緒に参加し、温泉入浴や買い物等を楽しむ宿泊旅行などを行っております。

合同活動では他の病棟入所者と一緒に園内外の行事や催事を楽しむ事を目的として行われ、カラオケ大会やお正月のゲーム大会、夏祭り等が行われ、利用者同士の親交を深めています。

課内活動では、日常生活の延長の中で四季行事（初詣やひな祭り等）、お誕生日会等で季節の移り変わりを感じるとような取り組みを行っています。また、毎日の午後から時間を設けて、発達年齢を意識し、生活の豊かさへつなげる事を目的とした個々の個別支援計画に従い個別またはグループ活動が行われています。

親としては、排泄・更衣・入浴・食事等も大切な日中の活動の一つと考えています。一つ一つの関わりの時に声掛けを大切にしてもらいたいと思っています。特に食事は子どもたちにとって最大の楽しみであり、職員との一対一の関わりの場であることから、十分な時間の確保をしてほしいと思います。また、利用者も生活習慣病となる年齢となり、日々の体調の変化に気配りをお願いしたいと思います。

最近では、入所されている方々の高齢化・重度化の影響から、一人一人に対する生活介護に時間を必要とするようになったこと、また、職員の不足が課題となっているとのことです。十分な活動時間が取れない時もあるようですが、規模の調整、方法など様々な工夫をして取り組んでいるとのこと、親としても何らかの形で協力出来たらと思っています。



## 第4回 理事会報告

### 1. 第57回重症心身障害児(者)を守る全国大会について

新型コロナウイルス感染症流行の終息が見えないこと  
利用者本人と保護者も高齢の方が多く重症化しやすい。  
飛行機や列車での移動は密閉空間で感染リスクが高い。  
等の理由から、全国守る会役員協議の結果中止となる。



### 2. 第25回全道大会について

拡大理事会方式で総会のみ実施（研修会・懇親会は無し）  
時期は6～7月頃を検討

### 3. 各地区からのお知らせ

**札幌地区**～活動を行うのに助成も少なく運営が厳しい。イオンの幸せの黄色いレシートキャンペーンでイオン商品券を頂き助かっている。

ふれあいキャンプやクリスマス交流会は多くのボランティアの応援が定着している。

介護者研修会では講師の小堀理学療法士から「大切な日常の過ごし方、関わり方ー特にコミュニケーションの困難な重症児者についてー」の話を聞いた。支援者側が本人の発信しているものをいかに理解できるかが大切と、良い内容だった。

**オホーツク地区**～医療機関の駐車場の優先が障害者だけでなく多数の方が使用できるようになったので、他の障害団体と協力して拡充の要望を出せた。他の障害団体とも話し合ったことで互いに理解しあえた。

**士別・名寄地区**～地域で預けている生活介護事業所で保育士が介護職員等の医療的ケア（喀痰吸引、経管栄養）の研修を受けてくれた。

### 4. 保護者会からのお知らせ

**しらかば愛育園**～八雲病院が令和2年8月三か所に移転（函館市の函館病院、札幌市の北海道医療センター、帯広市の独立行政法人国立病院機構帯広病院）する。どのように移動するか？今後どのような生活になるか？等不安だけがあり、なかなか説明を受けられなかったが、道守る会から国立病院機構に申し入れをしてもらい、説明会を受けることができた。函館でも保護者会（地区守る会も含め）を立ち上げたいと思うが、一緒に動いてくれる人がいなくて、どのように取り組んだらいいか、仲間を探したいと思っている。

☆まずは保護者会を立ち上げ、守る会運動につなげていきましょう！

**みどりの里**～9月に新しい施設に移転することになっている。近い場所だが、今移動の訓練をしている。来年保護者会も50年を迎える。どのような式典にしようかと考えている。親も高齢化で亡くなったり、来園できなくなり、役員のなり手がいなくなっている。新たな施設は交通の便が良く、車で来られなくなっても、便利になり、宿泊場所も出来ている。

入所者の方々は新しい施設での生活を楽しみに移転の準備に入っている。

## 第57回 重症心身障害児(者)を守る全国大会

2020年度 北海道(札幌)大会は新型コロナウイルス感染症流行のため中止となりました。

次の機会に北海道からみんなの想いを伝えましょう！

令和2年3月19日

北海道知事  
鈴木直道様

北海道重症心身障害児（者）を守る会  
会長 太田由美子

## 新型コロナウイルス感染対策に関する重症心身障害児（者）の 生活を守る緊急要望書

日頃、当会の活動につきましては、格別のご指導・ご理解を賜り深く感謝申し上げます。

さて、標記の件につきまして、国及び北海道では新型コロナウイルスの感染予防対策として、逐次緊急に対応が進められていることに感謝申し上げます。

世界的な感染拡大への不安が高まる中、北海道内のウイルス感染の終息目途も見えず、さらには、日常生活においてアルコール消毒液やマスク等を必要とする医療的ケア児者の家族から「消毒液が入手できない」「マスクが手に入らない」など、生活に欠かすことのできない物資の不足について、生死に関わる状況にあると不安を訴える深刻な意見が多数寄せられています。

国の対策では、緊急性のある医療機関等にマスク等を配布していますが、在宅で医療や介護をする人たちへの支援にまでは拡がっていない状況です。

つきましては、当事者団体として、在宅で生活する重症心身障害児・者、特に医療的ケア児者の生活を保障して頂きたい、緊急に下記の事項を要望致します。

### 【要望事項】

1. 北海道として、在宅で医療的ケアを必要とする重症心身障害児・者のために優先的にマスク及びアルコール消毒液等、必要な医療用品の給付をお願いします。
2. 新型コロナウイルス感染予防対策として、3月13日事務連絡、厚生労働省・援護局障害保健福祉部障害福祉課から「医療的ケアを必要とする児童のご家庭への手指消毒エタノールジェル及び容器の送付について」の通達が各都道府県に出されました。  
しかし、北海道内は老障介護による者への医療的ケアも増えています。  
本人と介護者を守るためにも児だけではなく、医療的ケアのある重症心身障害者にも同様にマスクやアルコール消毒液等の給付をお願いします。

# コロナウイルスについて

巷では連日のように報道がされていますが、コロナウイルスとはどのような病気なのでしょうか。

## 症状

- 熱、咳、呼吸苦、だるさ、筋肉痛など

一般的な風邪と変わらない為発見が遅れる場合があります。症状が続く場合注意。

- 感染経路は接触感染と飛沫感染

感染者が菌の付着した手でしたり、咳が掛かるなどが原因となります。

- 高齢者・基礎疾患のある患者が重篤になるリスクが高い。

在宅重症児者やご家族は注意が必要となります。その他の人（特に若い人）は比較的軽症で済むようで、実際（感染が判明している）罹患者の80%の人は軽症、もしくは発症していません。

## 感染力

- 感染力はインフルエンザと同等あるいはやや強い程度（日本感染症学会）

例えばインフルエンザは1人の感染者から3人ほどに感染します。風疹は5～7人。麻疹は12～14人。対してコロナウイルスは1人の感染者から1.4～3.7人とされています。他ウイルスに比べて特別感染力が強いわけではありません。



## 問題点

- 特效薬が見つかっていない

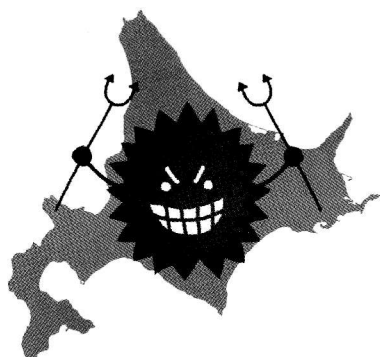
現在様々な国の医療機関・研究機関が特效薬の模索・開発中ですが、明確な回答は未だ出ていません。ですから、現状は対処療法が基本となります。回復する為には自己免疫で治癒するしかありません。

## 環境

- 北海道は高齢化率が高く、重篤になりやすい傾向。

- 北海道は低温で多湿でウイルスは過ごしやすい環境

コロナウイルスは高温で乾燥した環境は苦手です。暖冬とは言えまだまだ雪の残る北海道では更なる感染拡大も予想されます。





## 予防・対策

- マスクには予防効果はほぼない。だけど他人にうつさない為にマスクの着用する。  
マスクはウイルスを拡散しない為に必要な道具です。症状のない感染者がウイルスを広めているとの見方もありますので咳エチケットとして着用ください。
- 予防にはこまめな手洗い、うがい、消毒  
どんなウイルスも基本が大切です。正確な情報を正しく読み解き、正しく恐れましょう。



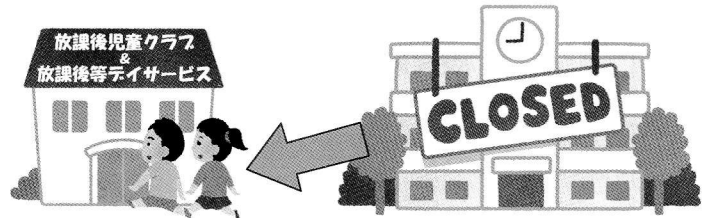
## 在宅生活の各対応について

### ◆外出について

- 不要不急の外出は避けましょう。  
他の手段で代替が可能であったり、その日でなくてもいいものは自粛しましょう。
- 散歩や空気の入れ替えなどストレスの発散を  
長い期間家の中にいるとストレスが溜まるものです。精神面も健康を保ちましょう。

### ◆学校について

- 臨時休校中の外出は避けましょう。  
幼児児童生徒に関しては基本的に外出しないようにとの文部科学省の指針です。
- 学校にて日中受入を行っている場合があります。  
学校は休業ですが、幼児児童生徒の居場所の確保の観点からやむを得ない場合の対応を行っている場合があります。学校にご相談ください。
- 放課後児童クラブ・放課後等デイサービスについては原則開所です。



### ◆病院について

- 定期受診などは時期をずらしましょう  
必要性の低い受診については時期を見合わせましょう
- 薬のみの処方も可能。  
薬が不足する場合、直接受診せずに処方してもらえます。ご確認ください。
- 感染している疑いがある時は事前に相談。  
感染の疑いがある場合、すぐに受診したい気持ちはわかりますが他の患者さんへの拡大防止の対策もあるため受診前に病院にご相談ください。
- 普段と違う様子（呼吸苦や痛み等）を注意深く観察  
風邪や不調による発熱と誤認する場合があります。注意深く観察しましょう。

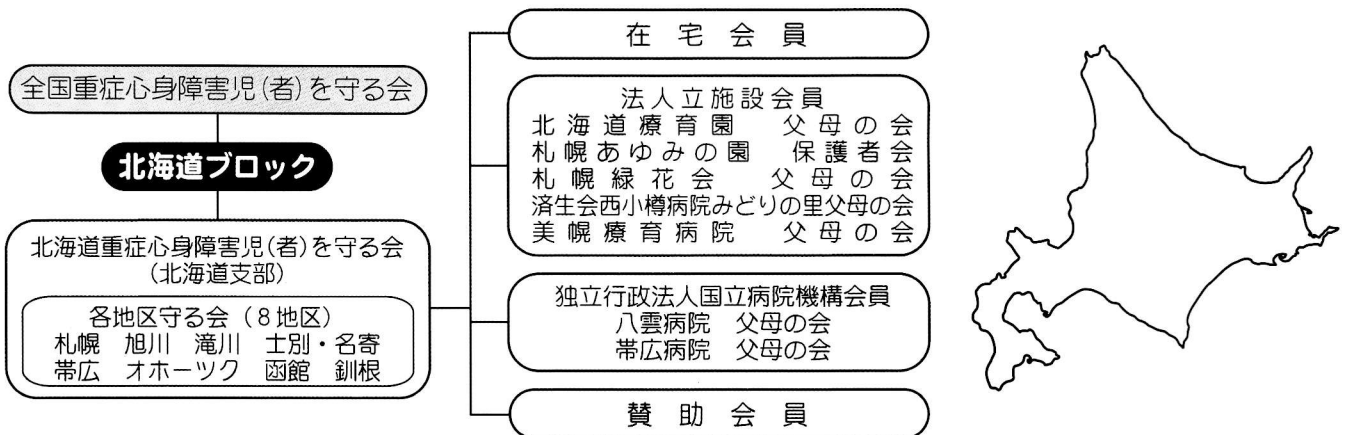
### ◆福祉サービスについて

- 本人、家族が体調不良の場合はサービス利用を見合わせましょう。  
福祉サービス等に関しては十分な感染防止対策が取られたうえでサービスが提供されています。しかし、通所系だけでなく訪問系のサービスの場合もご本人やご家族に体調不良の方がいる場合は職員や他の利用者さんへの感染の危険がありますのでサービスの利用を見送るようにしましょう。

# 守る会運動へのあなたの参加を お待ちしております!!

北海道における重症児（者）のベッド数は1,320床、また在宅重症児（者）数は1,200余名を数え、札幌市や旭川市を含めて広範囲な地域で生活しています。

北海道重症心身障害児（者）を守る会は全国重症心身障害児（者）を守る会を構成する組織（北海道支部）として、平成8年8月に発足しました。子どもたちの生涯に亘るより良い暮らしを願って現在約1,000名の会員並びに賛助会員が結集して地域に根ざした活動を進め、道内各地区で行政や、関係機関への働きかけを行っています。



**在宅部会：**家庭で重症児（者）の介護にあたっている家族で構成しています。地域で生活するための様々な要望、課題＝重症児（者）通園事業の拡大、養護学校通所における医療的ケアの充実、短期入所や在宅支援制度の普及等々に取り組んでいます。

**重症児施設部会：**民間の重症児（者）施設に入所している方々の家族で構成しています。各施設での生活の質の向上、在宅重症児（者）への支援機能の充実を目指して、施設関係者と協力しながら運動を進めています。

**国立施設部会：**国立病院の重症児（者）病棟に入所している方々の家族で構成しています。独立行政法人化の施行に伴う入所児（者）の生活の質の向上、在宅重症児（者）への支援機能の充実を目指して、施設関係者と協力しながら運動を進めています。

**母親部会：**在宅、施設を問わず母親同士でなければ語れない色々な相談や日常の悩み、それら話し合う事によって癒されたり、温かい思いやりのある仲間作りをしています。

## 入会のご案内

（加入手続きについて）

守る会に入会を希望される方は、下記事務局までご連絡ください。

「入会申込書」をお送りいたします。必要事項を記入のうえご返信ください。

（年会費について）

正会員 10,400円（内訳 本部年会費 8,400円／北海道守る会年会費 2,000円）

賛助会員 7,000円（内訳 本部年会費 5,000円／北海道守る会年会費 2,000円）

※いずれも本部年会費には月刊誌「両親の集い」購読料を含みます。

（連絡先）

北海道重症心身障害児（者）を守る会事務局

〒071-8144 旭川市春光台4条10丁目 北海道療育園内

電話 (0166) 51-6524 FAX (0166) 51-6871

